

<第30回調査>

2011年11月28日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2011年11月15日(火)13:00~2011年11月22日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。
今回の有効回答数は975件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

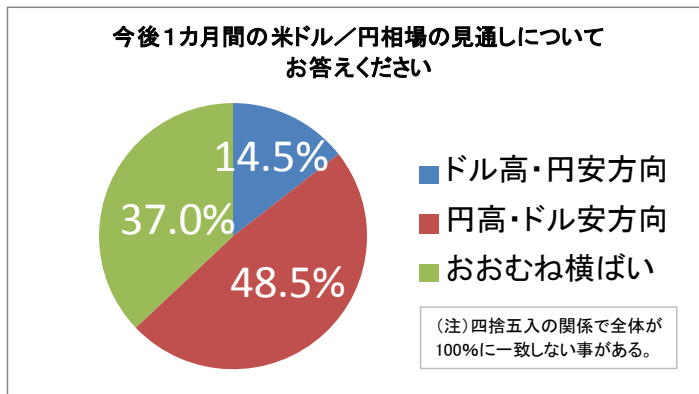
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第30回調査結果略報：予想DIはいずれも過去最大のマイナスに】

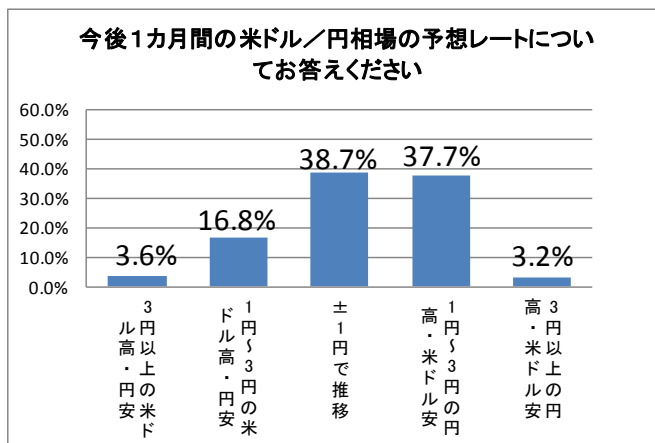
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が14.5%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が48.5%となった。この結果、「ドル円予想DI」は▲34.0%ポイントとなり、前回調査の+5.3%ポイントから一気に過去最大のマイナスDIに転落した。調査期間中のドル円相場は77.00円を挟んで上下50銭程度の狭いレンジでもみ合いが続いたが、米国議会の超党派委員会において財政削減策をめぐる協議が合意出来なかった事や欧州債務問題の影響から米国景気の先行きに懸念が持たれる中、円強気・ドル弱気予想が優勢となったようだ。また、10月31日には、政府・日銀による円売り介入が行われたが、民主党政権下で行われた過去の介入の効果がいずれも持続性に乏しかった事から、先行きの円高・ドル安予想増加につながった面もありそうだ。
※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が38.7%と最も多く、次いで「1円～3円の円高・米ドル安」が37.7%、「1円～3円の米ドル高・円安」が16.8%、「3円以上の米ドル高・円安」が3.6%、「3円以上の円高・米ドル安」が3.2%の順になった。ヒストグラムの形状は、円高・ドル安方向に傾いており、問1の結果と整合的と言える。もっとも、「±1円で推移」と答えた割合が最も多く、「3円以上の円高・ドル安」が最も少ない事から推測すると、年内に大幅に円高・ドル安が進行して、10月31日の早朝に付けた戦後最安値である75.32円を更新すると見ている向きはそれほど多くはないようだ。



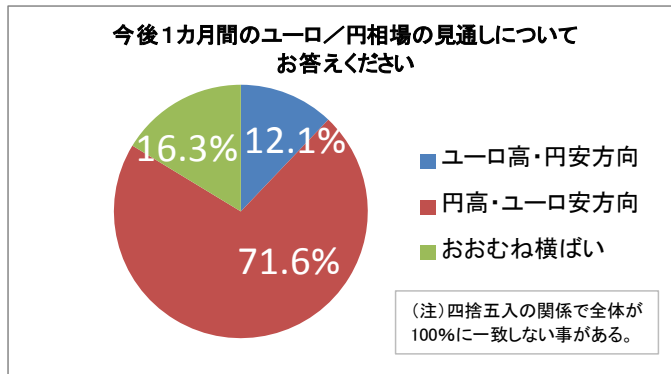
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が12.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が71.6%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲59.5%ポイントとなり、前回調査の▲42.1%ポイントからマイナス幅がさらに拡大し、2カ月連続で過去最低を更新した。調査期間中のユーロ円相場は債務危機がイタリアやスペインに拡大したばかりか、フランスの「トリプルA」格付けの維持にも懸念が強まる中、105円台から103円台に軟化した。当面は、こうした円高・ユーロ安傾向が続くとみるFX投資家が圧倒的多数を占めた事になる。

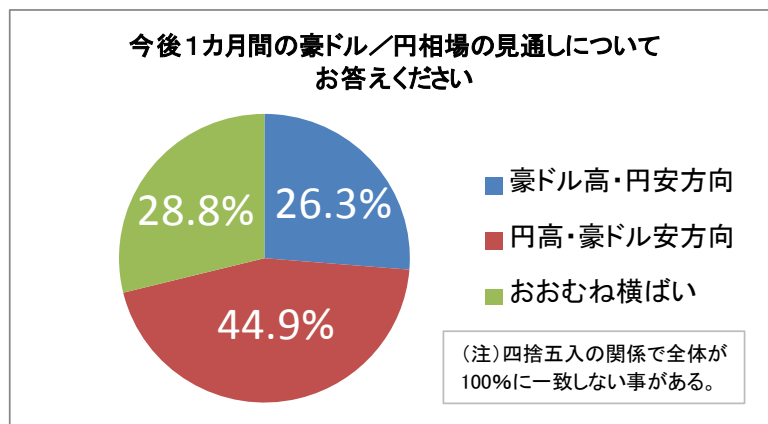
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が26.3%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が44.9%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は▲18.6%ポイントとなり、8カ月ぶりにマイナスDIに転落。マイナス幅は調査開始以来最大となった。調査期間中の豪ドル/円相場は、欧州債務危機を起点とした世界的な景気減速懸念を背景に79円台から75円台に下落したが、豪ドルは今回の危機の火元となったユーロに対しても下落するなど、ほぼ全面安の様相だ。豪準備銀行(RBA)の追加利下げ観測がくすぶっている事もFX投資家の円高・豪ドル安予想につながったと思われる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

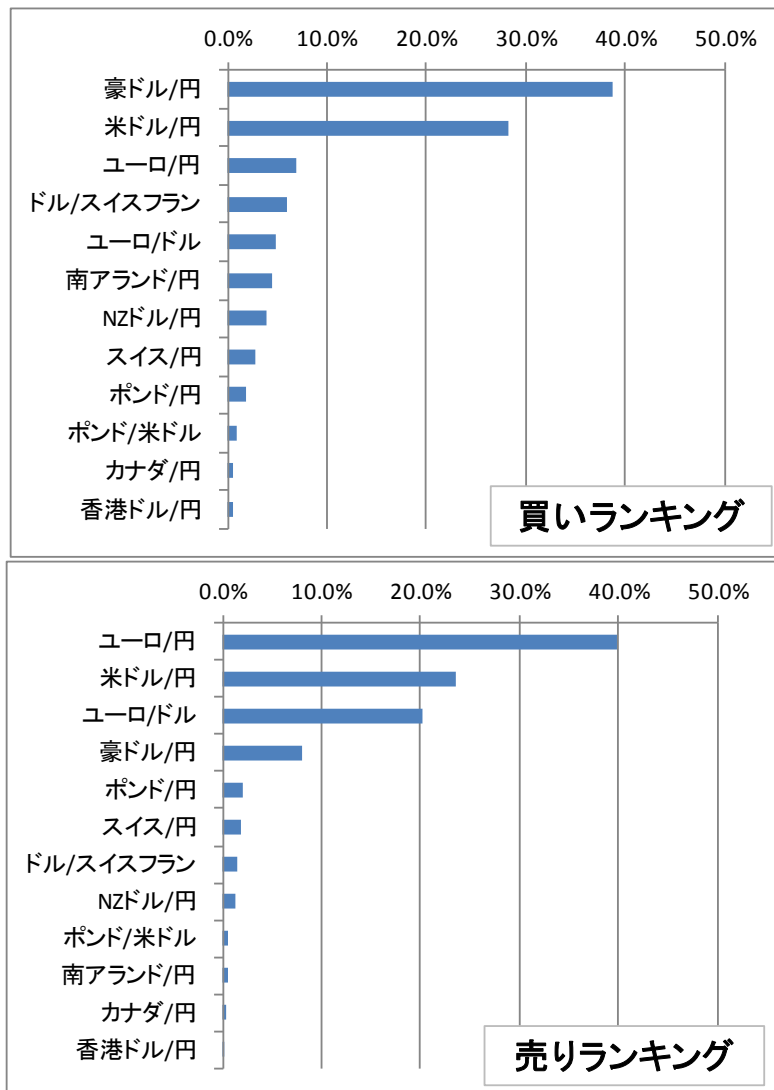


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

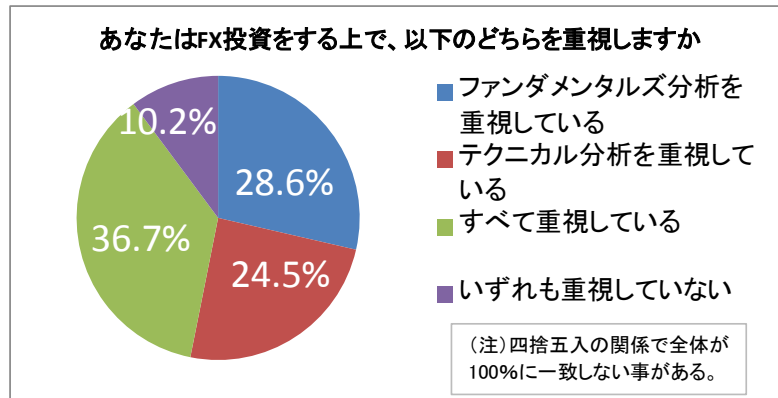
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(38.7%)、2位ドル円(28.2%)、以下大きく離れて3位ユーロ円(6.9%)、4位ドルスイス(5.9%)、5位はユーロドル(4.9%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(39.9%)、2位ドル円(23.6%)、3位ユーロドル(20.2%)、4位豪ドル円(8.0%)、5位ポンド円(2.1%)となった。「買い」で注目の通貨ペアでは豪ドル円が1位の座をキープしたが、これは円高・豪ドル安予想が大幅に増加した問4の結果とはやや矛盾する。もっとも、この点については問4が豪ドル円に対する絶対的評価であるのに対し、本質問は豪ドル円の相対的評価である点から説明できよう。つまり、米ドルやユーロの先行きを弱気に見ているFX投資家が多く、豪ドルはそれらに比べるとまだマシという評価につながったと考えられる。問1でドル高・円安を予想した割合(14.5%)や問3でユーロ高・円安を予想した割合(12.1%)に比べ、問4で豪ドル高・円安と答えた割合(26.3%)が多かった事が相対的評価では高い回答割合を得た原因であろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

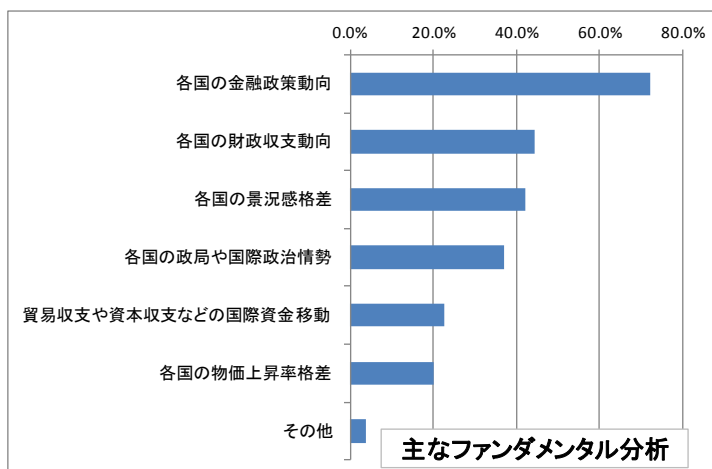
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が28.6%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が24.5%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が36.7%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は10.2%であった。調査開始以来、FX投資家の分析手法の好みに顕著な偏りは見られない。「ファンダメンタルズ重視派」と「テクニカル重視派」、「両方重視派」が比較的バランスよく混在していると言えるだろう。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(72.4%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(44.6%)」、「各国の財政収支動向(42.3%)」、「各国の政局や国際政治情勢(37.2%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(22.6%)」の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割以上の回答割合を集めた。先進国の間では低金利政策を採る国が多く、実際の「金利差」はそれほど大きいとは言えないが、最も基本的な為替相場の変動要因のひとつである「金利差」につながる「金融政策格差」に注目するFX投資家が多数を占める傾向は調査開始以来変わらない。

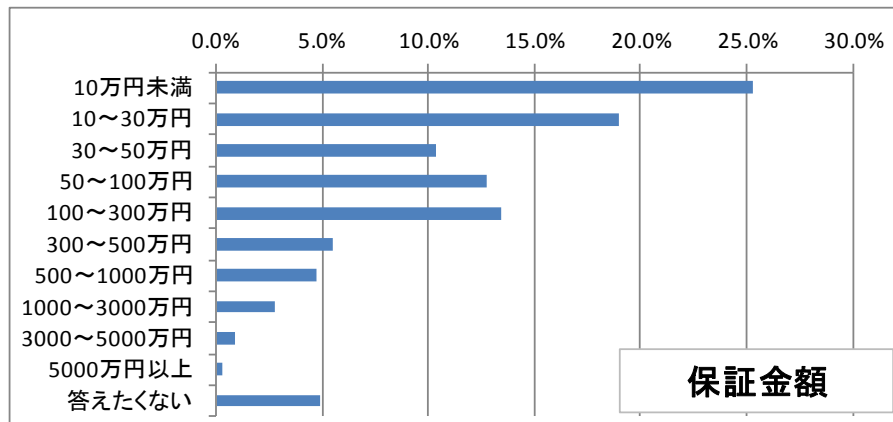


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

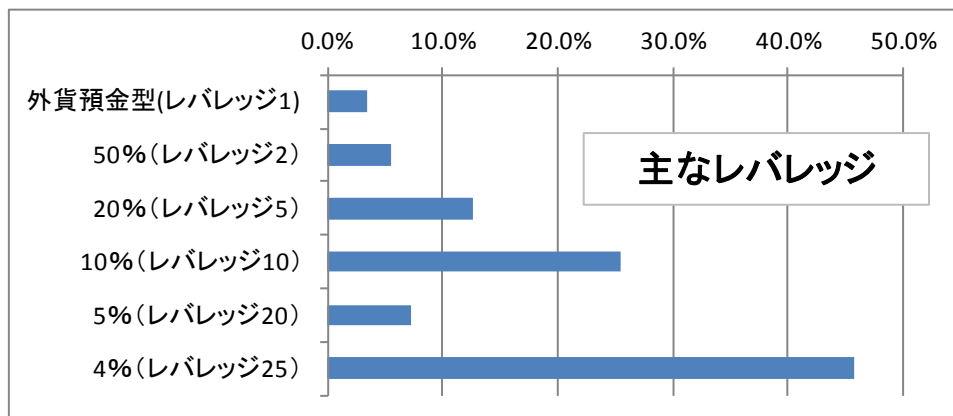
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が25.3%と最も多く、以下「10～30万円(19.0%)」、「100～300万円(13.4%)」、「50～100万円(12.7%)」と続いた。100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家の合算割合は、前回調査の61.9%から67.4%に再び上昇した一方で、1000万円以上と答えた合算割合は6.2%から4.0%に低下した。今年8月のレバレッジ規制(上限50倍から25倍へ)から約4ヶ月が経過したが、FX投資家が取引の際に差し入れる保証金の額はなお流動的であり、相場動向に応じてこまめに増減させている可能性もありそうだ。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が45.7%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が25.4%、以下「20%(レバレッジ5)」が12.6%、「5%(レバレッジ20)」が7.3%、「50%(レバレッジ2)」が5.4%と続いた。今回調査でも「4%(レバレッジ25)」が半数近くを占めており、8月のレバレッジ規制以降はこの傾向が定着している。8月以降のドル円相場は75円台から80円台で推移したが、2度の円売り介入があったにしては比較的小さなレンジ内での上下動となった。このように、あまり値動きが良くないドル円で高い収益を得るために、最大レバレッジを選択して取引金額を増やしているFX投資家が多数にのぼったものと考えられる。

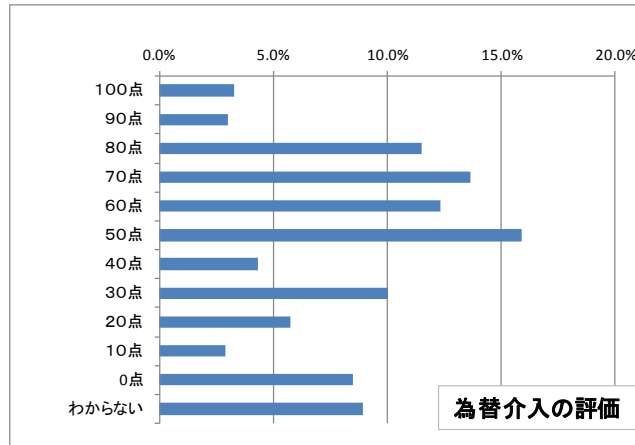


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

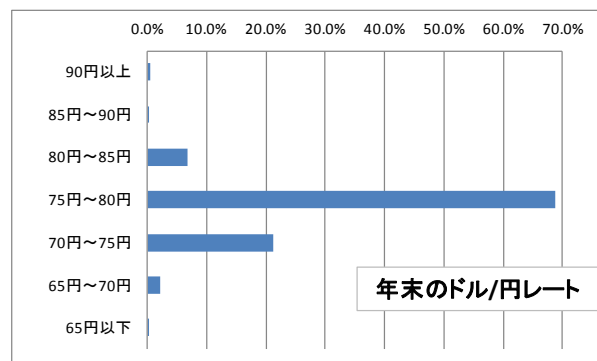
問10: 10月31日に行われた政府・日銀による為替介入に点数を付けるとしたら？(ひとつだけ) またその理由を教えてください。

今月の特別質問項目として、10月31日に行われた政府・日銀による為替介入に点数を付けるとしたら？(ひとつだけ)と尋ねたところ、「50点(15.9%)」と答えた割合が最も多く、以下「70点(13.6%)」、「60点(12.3%)」、「80点(11.5%)」、「30点(10.1%)」と続いた。また「100点」とした割合は3.3%、「0点」とした割合は8.5%であり、平均点を計算すると「50.73点」となった。さらに、その点数を付けた理由について自由記述形式で尋ねたところ、比較的高い点数を付けた向きからは「介入のおかげで利益が出たから」や「日本政府の意思が市場に伝わった」、「輸出企業の助けになったから」などの回答が目立った。反対に比較的低い点数を付けた向きからは「単発介入では効果が薄い」や「タイミングが遅すぎる」などの他、「スイスのように目標レートを設定すべき」との声も挙がっていた。



問11: 12月31日ニューヨーククローズ時点のドル/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)

今月のもう一つの特別質問項目として、12月31日ニューヨーククローズ時点のドル/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)と尋ねたところ、「75円～80円」と答えた割合が69.1%と最も多く、以下「70円～75円(21.3%)」、「80円～85円(6.8%)」、「65円～70円(2.2%)」と続いた。年末時点のドル円レートを概ね横ばいからやや円高・ドル安方向に見ているFX投資家が多いようで、問1や問2の結果と整合的と言えるだろう。もっとも、「75円～80円」と答えた中にはドル高・円安予想と円高ドル安予想が混在していると見られ、足元のドル円相場の値動きの小ささから考えると、5円刻みの質問にやや難があったと言えるかもしれない。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第30回目となりました。調査開始後2年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

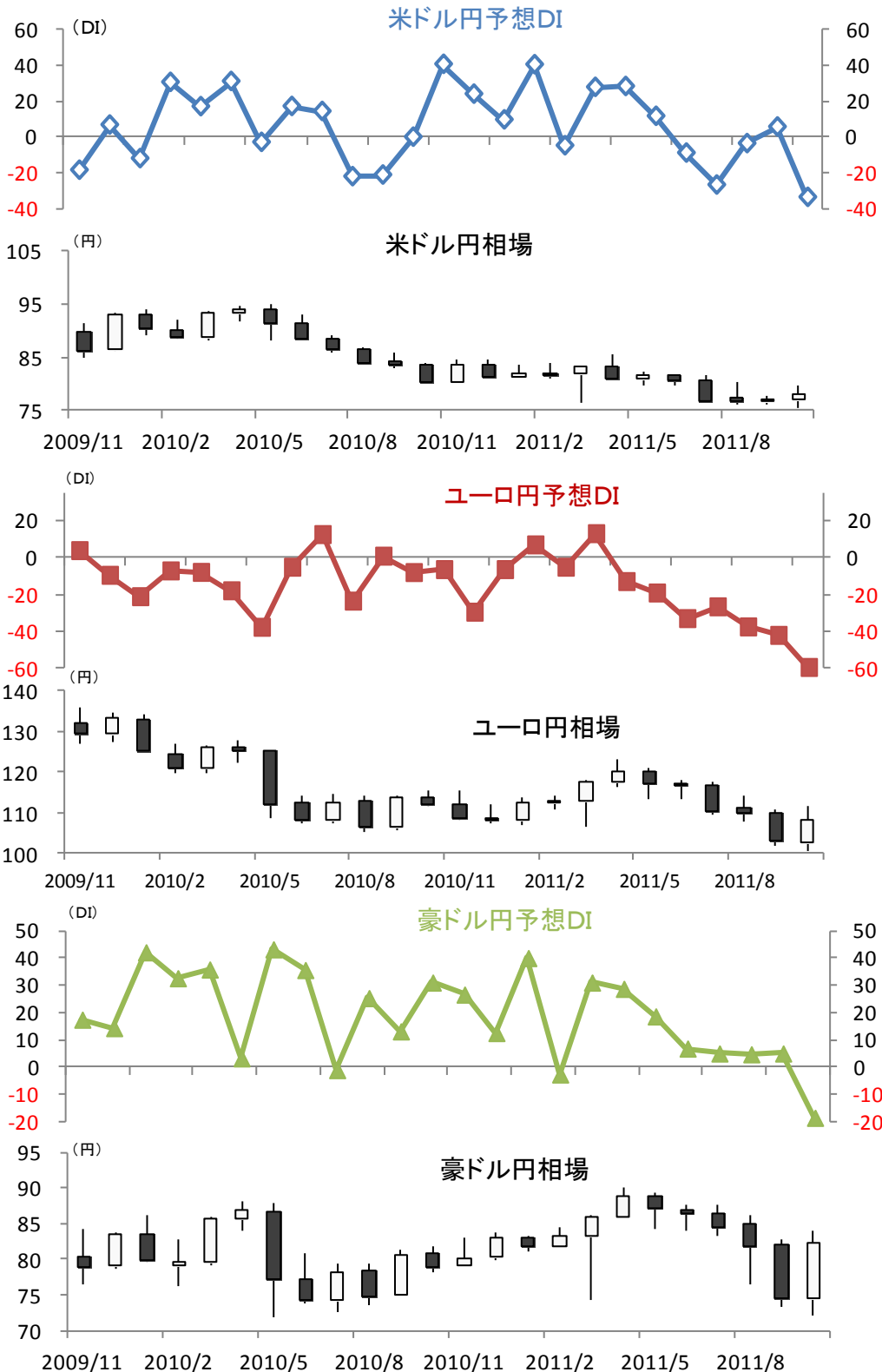
		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com